

6月29日 杏

6月の初旬。梅の実が熟して落ち始めたので、理科のA先生と一緒に中庭の梅の実を採りに行った。中に明らかに梅より大きな実をつけた木があった。杏である。

『あんず花着け』って知ってますか。室生犀星の詩で、高校のとき暗唱させられたから覚えているんです。暗唱できなかつたらひどく怒る怖い先生やった」

A先生は化学が専門なのに、時折文学的な話をする。

あんずよ

花着け

地ぞ早やに輝やけ

あんずよ花着け

あんずよ燃えよ



桜より少し前に開花し、春の訪れを知らせる杏。燃えるように咲き誇ることで、地面さえも輝かせる。そんな春の光景を待つ思いが、短い言葉で鋭く詠われる……。犀星は、長編小説『杏っ子』に代表されるように、自分の娘をよく「杏」に喩えた。リズムよく言い切る表現は、娘に寄せる父の願い……。

そんな詩情もよそに、どうやって食べようか相談する、“花より団子”のおっさん二人なのであった。